



幸せを探しているあなたに

2010年 庚寅の年 根本を変えれば、運命が変わります

ある日、理由が分かりました 今年もまがうことなく、新年の門はパッと開かれましたが、地球のあちこちから聞こえてくる殺伐とした自殺爆弾テロなど、あらゆる不幸の知らせは、相変らず繰り返されています。いったいなぜ、そのようなことが続くのでしょうか。

ある日、私はなぜ人々が願ってもいないのに不幸にずっと陥るのか、成功者が虚しさを覚え、やみの中をさまよふのか、分かりました。だれにも話せず、話しても理解することができない問題がどんなことなのかを悟りました。環境、条件、水準、知識と関係なく、幸せになる道があるという事実を知りました。

そして、私ひとりのゆえに、家庭と家系と次世代と全世界を生かせるという事実も分かりました。その解答を発見したので、それをお伝えしようとペンを持ちました。

神様は、あなたに向かった驚くべき計画を持っておられます。私たちは生きていれば、望んでいないのに、問題の中に置かれるようになる時が多いのです。ところで、こういう問題は、はやく解決しなければ、より一層深刻な状態にぶつかるようになります。

なぜ、こういう問題が起きるのでしょうか そして、その解決策はいったい何でしょうか。今、あなたに、このような問題を完全に解決できる道があるならば、どうしますか。神様のみことばである聖書には、その解決策が確かに知らされています。

本来、人間は神様のかたちとして創造されたと、聖書は確かに明らかにしています。神様を知って、礼拝できる霊的な存在として、神様と交わりながら生きるように創造されました(創世記 1:27、2:7)。そして、人には全地を征服して治める権威が与えられました(創世記 1:28)。言いかえれば、人は最高に幸せな霊的存在として創造されたということです。魚が水の中で、鳥は空中で、木は土の中に根をおろして生きなければならぬように、神様のかたちとして創造された人間は、神様とともに生きてこそ、真の幸せを味わうようになります。これが神様の創造の原理です。

ところで、なぜ人間に、このように解決できない不幸な問題がたくさん生じるようになったのでしょうか。人間を創造された神様と人間の間には約束がありました(創世記 2:17)。ところで、人間はサタン(悪魔)の誘惑で、この約束を破る罪を犯してしまいました(ローマ人への手紙 3:23)。罪を犯した結果、人間は神様を離れるようになりました(創世記 3:1-6)。神様を離れた人間は、サタン(悪魔)の奴隷になってしまいました(ヨハネの福音書 8:44)。その結果、人間には呪いと災いと苦しみと死が入ってきて、運命と生年月日による運勢に縛られるようになりました(創世記 3:16-20)。最初の間であるアダムとエバが罪を犯した後、すべての人間は原罪を持って生まれるようになり、私たちのたましいは、神様を離れて死んだたましいになりました。これが、私たち人間の根本問題です(創世記 3:1-6、ローマ人への手紙 3:23)。

人間は、結局、神様を離れてサタン(悪魔)に支配されながら生きるようになりました。神様に敵対して、私たちの人間に苦しみと呪いをもたらし、結局は滅ぼすのがサタンの目的です(ヨハネの福音書 10:10)。それで、神様を離れた人間は、次のような問題で苦しみながら生きるようになったのです。神様とともにいなければならぬ人間が神様を離れて、自分も知らないうちに悪魔に支配されるようになりました(ヨハネの福音書 8:44)。その結果、迷信、偶像に陥って、占い、お祓い、善行を試みるのですが、幸せはなくて、引越しの日、方角、お墓の場所を自由にするできない運命と運勢、さだめに縛られて生きるようになります(エペソ人への手紙 2:2)。不安、むなしさ、虚無感、精神病、ノイローゼ、うつ病、不眠症など、おかしい呪いに捕われて、背景はよく、知識も多くて、お金も多いのに、どんどんさまようようになります(エペソ人への

手紙 2:3)。体は心痛、病苦、不治の病、悪夢に苦しめられて、金縛りにあい、病名もない苦しみを受け、生活の中で繰り返す失敗と葛藤を体験するようになります(使徒の働き 8:4-8)。結局、神様を認めず、現実だけに執着して死んだ後には地獄の永遠な審判を受けるようになります(ヘブル人への手紙 9:27)。もっと深刻なのは、この苦しみが私の問題だけで終わるのではなく、すべての問題が再び私の子どもに、そのまま相続されるという事実です(出エジプト記 20:4-5)。多くの人々が宗教、善行、哲学、科学などを通して、こういう不幸の問題を解決しようとして、神様に会おうと努力するのですが、人間は自分の力ではこの問題を解決することはできません。

身分を変えれば運命を変えることができます それで、神様は人間の問題を解決して下さるために、人間を救う計画をたててくださいました。その方法は神様が人間となってこの世に来られることでした(ヨハネの福音書 1:14、ローマ人への手紙 5:8)。その方がまさに「イエス・キリスト」です(マタイの福音書 1:21)。イエスは「救い主」(名前)、キリストは「油を注がれた者」(職分)という意味です。イエス・キリストは、神様を離れたすべての人間を神様に会うようにさせる唯一の道となられたまことの預言者です(ヨハネの福音書 14:6)。イエス・キリストは、十字架で私たちの罪をあがなう死によって、私たちのすべての罪を解決して、呪いと災いから解放させられたまことの祭司です(マルコの福音書 10:45、ローマ人への手紙 8:2)。イエス・キリストは、聖書の預言どおりに十字架で死んで、3 日後に復活され、今でも人間を困らせて地獄に引っ張っていくサタン(悪魔)のすべての権威を完全に打ちこわされたまことの王です(ヨハネの手紙第一 3:8)。

それで、聖書はイエス様を「キリスト」だとおっしゃっています。言いかえれば、人間が絶対に解決できない根本問題を完全に解決された方だということです。イエス様は、これらすべての救いの計画を十字架で成し遂げて、死から復活されました(コリント人への手紙第一 15:3-4)。そして、今でも天の御座におられ、世の中を統治しておられます。

それなら、私はどのようにしたら、私のすべての問題から解放されて、救われることができるのでしょうか。今、上の事実を信じて、イエス様をキリストとして私の心に受け入れれば良いのです(ローマ人への手紙 10:9-10、ヨハネの福音書 1:12)。イエス様を信じて、祈りで受け入れれば、神様の霊である聖霊様が、私の中に入ってこられ、神様の子どもになる身分を得ようになり、本来の人間が味わった祝福と権威を回復するようになります(コリント人への手紙第一 3:16、創世記 1:27-28)。今、この時間に、あなたはイエス・キリストを受け入れれば神様の子どもになって、あなたの過去、現在、未来のすべての問題が解決されます(ヨハネの黙示録 3:20、ヨハネの福音書 5:24)。

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」(ヨハネの福音書 1:12)

真実な心で、下の祈りをしてイエス・キリストをあなたの救い主として、主人として、心の中にお迎えする祈りをすれば良いのです。

愛の神様。私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決されたキリストであると信じます。
今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。
今、私の心の中に来てくださって、私の主人になってくださり、私を導いてください。
これから神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。
イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン。

今、あなたはイエス・キリストを受け入れて神様の子どもになって、まことの幸せと平安を回復するようになりました。あなたに不幸を繰り返すようにさせた運命は終わったのです。これが神様の愛で、神様の子どもに向けられた祝福の約束です。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」(ヨハネの福音書 5:24)

見よ、わたしが新しいことをする！

一勞永逸、康衢煙月 韓国の大統領官邸である青瓦台は2010年の新年のキーワードとして「一度苦勞すれば、その後長くその恩恵で安樂な生活を送ることができる」という意味を持った「一勞永逸」を選びました。一勞永逸を選んだ理由について、大統領官邸は李明博大統領が「在任中に刻苦し献身をつくして、国を岩の上にあげて、次の政府と次世代に先進一流国家を譲ろうという李明博大統領の覚悟が現れたこと」と明らかにしました。一方、2010年の大学教授と日刊紙コラムニストが選んだ四字熟語は「にぎやかな街でもやに包まれながら月光がほのかに射すようすを表す言葉」である「康衢煙月」が選ばれました。中国で天下を治めて50年になった堯王が民の心を調べようと平服姿でにぎやかな街に出て行ったのですが、ちょうど子どもたちが「私たち民を暮らせるようにしてくださいるのは、王の限りないおかげです」という童謡を歌っていました。それ以後、康衢煙月はのんきな世の中の平和な風景を言う言葉として使われたということです。

わたしが新しいことをする 2010年神様は「RUTC(レムナント共同体訓練場)時代の新しい開始」の門を開けてくださいました。新しい開始のために、私たちは何からすべきなのでしょう。イスラエルの民が持っていた過去のエジプトの奴隷根性、偶像崇拜と靈的問題、精神問題から抜け出して、福音と靈的な事実をのがさずに過去の傷に捕われてはいけません。神様は「新しいことをする」と約束されました。私が持っている限界、小さい器、問題、傷、弱さ、失敗を持って神様の前で最も真実に、良心的に祈りながら、神様が私とともにおられることを体験すれば良いのです。そうすれば、私の過去は土台になります。それなら、今日はどのように最高の日にすることができるのでしょうか。まず神様が最高にご覧になっているメッセージを握らなければなりません。「あなたは生ける神の御子キリストです」このメッセージを握って、今日から全てのことをキリスト(使徒1:1)、神の国と聖靈の導き(使徒1:3)、聖靈の満たしと祈り(使徒1:8)の中に連結して、その中で今日与えられる祝福のみことば、今日与えられる祈りの課題、今日私がするすべてのことが伝道と何の関係があるのか探し出せば良いのです。神様が今日、私に与えられるすべてのこと、すべての事件、すべての出会い(人)は祝福の機会です。さらには、未来は神様の御手にあって、神様が準備しておられました。肉体的にも余裕を持つ時間管理をしなければなりません。精神的にも常識以上で行いながら、靈的に神様が大切にご覧になること、神様の願い、神様の目標を知って祈る時、未来は確かに見えるようになっていきます。これから必ず来る7つの未来の働きであるRUTC時代、OMC時代、重職者時代、教役者時代、文化戦争時代、福祉伝道時代、未自立教会回復を置いて祈らなければなりません。

神様は、必ず次世代を生かすレムナント運動(イザヤ6:13)、滅びない福音運動(イザヤ7:14)、みことばを通して新しい力を受けるように(イザヤ40:31)、暗やみの中にいる多くの人々が立ち返ってくるように(イザヤ60:1)、万民のために旗を揚げるようにする(イザヤ62:1)新しい事を起こされるでしょう。私たちはいくつかの実践だけすれば良いのです。100%成就する神様のみことばを握って、完全に底辺から最高のことを考えながら、最後を見上げながら始めれば良いのです。「私は神様の子ども」という靈的自尊心を持って、礼拝を通して神様が私にくださるみことばだけ確認しても良いのです。神様は必ずインマヌエルの新しい祝福を通して、人を変化させる答え、現場を変化させる祝福、時代を変化させる答えをくださるでしょう。あなたは重要な人です!あなたは祝福の人です!

説教_柳光洙牧師、整理_チャ・ドンホ牧師

毎日毎日の森の泉

11日(月) 異邦人の救い(ローマ11:13-24)

神様の最高の関心は異邦人の救いにあります。異邦人の救いのために神様は全てのものを準備して、私たちを呼ばれました。パウロのように、福音を誇りに思って、すべての栄光を神様に帰すという器だけ準備すれば、神様は時刻表を私たちに合わせて働かれます。

12日(火)わたしの名を覚えさせるすべての所で、あなたを祝福しよう(出20:22-26)

完全な福音の中に入って、礼拝の奥義と血の契約を握って、主の御名を呼びながら祈って賛美する者のすべての現場に祝福してくださいと約束されました。世の中で、私の生活の中で、福音的な水準で人と状況を見ながら、祈りのリズムに乗れるならば、すべての所で答えを味わうようになります。

13日(水)完成のなる時まで(ローマ11:25-27)

私たちが違う動機なしに、聖靈の満たしを祈ることができるならば、世界を変化させられます。みことば成就の鍵、伝道と宣教の鍵、世界福音化の重要な鍵が、異邦人の完成がなる時までと関係があります。真の成功は、神様の絶対主権の中にある救いと伝道と宣教を理解して握ることです。

14日(木)失った祝福を捜して(使徒10:1-6)

ユダヤ人が失った福音と教会を見つける時、真の答えが来るようになって、現場にいる弟子と牧会者がすることを見つける時、現場を生かすメッセージで答えられ、世界宣教組織が立てられました。伝道の祝福を正しく知っている産業人が集まり始める時、神様は時代を動かす経済をくださいました。

15日(金)聖靈のパバテスマ(使徒8:14-25)

主の約束を(使徒1:1-8)握って祈れば、聖靈の働きを体験するようになります。この時、伝道の門が開いて、みことばが成就しながら、伝道の実と弟子が立てられて、経済問題が解決されて、現場が変化するみわざが起きます。定刻祈り、常時祈り、深い祈りの中で、この祝福をずっと味わわなければなりません。

16日(土)祈りと読書(箴言1:7)

良い本を読むということは、良い出会いとも同じです。いつも祈りと読書の習慣を持ったら、その中から知識も出てきて、信仰も生まれるようになります。知恵と知識の根本は、知識の中の知識である福音を知って主を恐れることです。

週間メッセージ

元旦祈り会1講: 過去を癒さなければ
(イザヤ43:1-7)

元旦祈り会2講: 今日を癒さなければ
(マタイ16:13-20)

元旦祈り会3講: 未来を癒さなければ
(使1:1-11)

聖日1部: 新しいこと(イザヤ43:14-21)

聖日2部: 新しい祝福(マタイ1:23)



イラスト_ユン・スルギ

宇宙の存在の中で動かないものはない。目に見えない微細な生物や巨大な天体であっても、ある方向性を持って宇宙は回っていて自然は生成する。人間はどこからきて、なぜ生きて、どこへ行くのか知らないまま、どこかに行っているのだが、かえってこういう疑問を一度も持つこともなく、成長するか、腐敗するか二つの中の一つを維持しながら生きて行く。人々は、どこかわからない所に行っているけれど、それでも、そのどこかがまさに自分と未来を保障してくれる事実的なところになることを渴望する。人間には三つの部類の人がいるが、どこへ行くのか知らない自然人、どこへ行くのか知らないが行かなければならないことを分かる宗教人、どこへ行かなければならないかを分かる契約の人だ。

遠い以前、個人的に恥ずかしかったことがあった。高校生の時だが、故郷がそちらだったので、チアク山に何回も上がって、比較的、慣れて山に登っていた。全国青年連合の集いのスケジュールの中に、チアク山登山が予定されていた。人員が多いから、グループに分けて登山をした。その中で山をよく知っている地域の青年たちをガイドに立てて、グループをリードして行ったのだが、予想外に人員が少なかったから、私のグループでは高校生だった私が選ばれた。でこぼこの山と言われたが、真に幽玄で表から見るにはただ美しい景観を自慢する大きな山にだけ見えた。しかし、いったん道に沿って入れば、渓谷と稜線の間にあるいろいろな分かれ道の中から頂上に向かってのびている道に従って行ってこそ、迷わないで無事に頂上に到着できるのだ。それゆえ、道知らない人に、山は恐れと困難の対象になったりもする。

今はチアク山は国立公園に指定されて、あちこちに方向表示板もあって、道も整理されたが、40余年前には、そうではなかった。当時の登山コースは、クリョン寺を起点にして、頂上である 1288m のピロ峰を経て、立石台をすぎて、ファンゴルに行く道だった。別々に山に上がり、私たちのグループだけ別

に残るようになったが、仮にもガイドであるから、先に立って、がんばって道を行って、行ってみたら、なんとまあ！行き詰まりの道だった。いくら振り返っても、人の跡は見えず、周辺も景色も見えない所だったので、うろたえはじめた。その中に、老練な青年がまた頂上に行って、また降りて来ようと意見を言った。男性メンバーは、道に迷っても登山の楽しみがあったので、あまり苦しそうではなかったが、女性メンバーが苦しんでいたのは確かだった。道を知らないガイドに会って、チーム全員を苦しめた記憶を思い出すと、今も申し訳なくなって、顔が赤くなる。

一生に一度だが、必ず行かなければならない人生の道で、いのちと救い、恵みと答えをくださる完全で、完ぺきな道は、はたしてどんな道だろうか。流されるままに自分をまかせて、自分の方法のとおり生きてみるが、希望をのがして生きる自然人や、確信はあるが道がない壁に到達した行く所がない宗教人の姿は、望ましい人間の姿ではない。

人間には神様がくださった良心の警告などがある。神様はその警告を通して、人間に方向性を与えてくださり、ただキリストを通してだけ、真の価値を受けると言われた。その希望を持った契約の人々は、新しい日々を祝福にしていき、未来を確信している。2010年、永遠に二度と来ない新しい時間が、私たちすべてに機会として与えられた。つまらない欲望に従うむなしい道で時間を浪費せずに、真の道、いのちの道でキリストの光に従って、どこへ行っているのかを確認した光る目に会いたい。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

*相談したい方はこちらまでどうぞ